

小学校 体育

1 教育課程実施上のポイント

(1) 目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。

体育科の目標は、(1)～(3)にある「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の目標が密接な関連を持ちつつ、体育科の究極的な目標である、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指すことと示された。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
各種の運動の特性に応じた行い方及び身近な生活における健康についての理解、基本的な動きや技能	運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考・判断し、他者に伝える力	運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度

(2) 実施上のポイント

①改訂のポイント

- ◇運動領域においては、生涯にわたって運動やスポーツに親しみ、スポーツとの多様な関わり方を場面に応じて選択し、実践することができるよう「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の育成を重視し、目標及び内容の構造の見直しを図った。
- ◇運動やスポーツとの多様な関わり方を重視する観点から、体力や技能の程度、年齢や性別及び障がいの有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるよう指導内容の充実を図ること。その際、共生の視点を重視して改善を図った。
- ◇保健領域においては、生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成することができるよう、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」に対応した目標、内容に改善した。
- ◇自己の健康の保持増進や回復等に関する内容を明確化し、「技能」に関連して心の健康、けがの防止の内容の改善を図るとともに、運動領域との一層の関連を図った内容等について改善した。

②見方・考え方について

- ◇「体育の見方・考え方」とは、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する観点を踏まえ、運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに

体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する、みる、支える、知る』の多様な関わり方と関連付けること。

小学校においては、運動やスポーツが楽しさや喜びを味わうことや体力の向上につながっていることに着目するとともに、「すること」だけでなく「みること」、「支えること」、「知ること」など、自己の適性等に応じて、運動やスポーツとの多様な関わり方について考えること。

- ◇「保健の見方・考え方」とは、疾病や障がいを防止するとともに、生活の質や生きがいを重視した健康に関する観点を踏まえ、個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること。

小学校においては、特に身近な生活における課題や情報を、保健領域で学習する病気の予防やけがの手当の原則及び、健康で安全な生活についての概念等に着目して捉え、病気にかかったり、けがをしたりするリスクの軽減や心身の健康の保持増進と関連付けること。

見方・考え方を働かせ、体育科の目標を達成するための学びが「深い学び」となります。そのため、子どもたちが見方・考え方を働かせるように授業改善していくことが大切です。



③主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善のポイント

- ◇次の視点等を踏まえて授業改善を行うことにより、育成を目指す資質・能力を育んだり、体育や保健の見方・考え方を更に豊かなものにしたりにすることにつながることを大切である。

授業改善を図る視点（例）

主体的な学び	運動の楽しさや健康の意義等を見付け、運動や健康についての興味や関心を高め、課題の解決に向けて粘り強く自ら取り組み、それを考察するとともに学習を振り返り、課題を修正したり新たな課題を設定したりする
対話的な学び	運動や健康についての課題の解決に向けて、児童が他者（書物等を含む）との対話を通して、自己の思考を広げたり深めたりし、課題の解決を目指して、協働的な学習に取り組む
深い学び	主体的で対話的な学びの過程を通して、自己の運動や健康についての課題を見付け、解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく解決する

日々の授業に「本当に主体的か」「本当に対話的か」「本当に深いか」という視点を持って授業改善に結びつけることが大切です。



④移行措置について

- ◇平成30年度から全部又は一部について新学習指導要領の規定によることができる。
- ※指導に当たっては、現行学習指導要領による場合でも今回の学習指導要領の改訂の趣旨を生かした指導となるよう配慮する必要がある。また、新学習指導要領による場合でも評価は現行学習指導要領に沿って行う必要がある。

2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導展開例

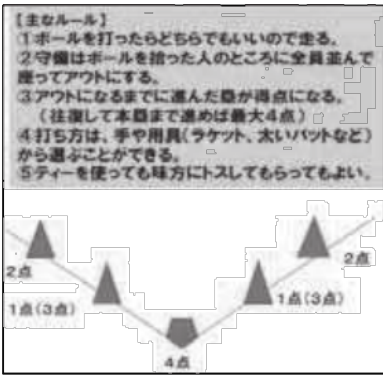
(1) 単元構成 <単元名 ゲーム「ティーボール」(第3学年)>

時間	ねらい	主な学習活動	主体的・対話的で深い学びの視点
3 本時	ゲームや練習を通してたくさん得点をとるための考えをもち、自分の力に応じた作戦を選ぶことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ボールを打ってアウトになるまで進塁するゲームを行う。 友だちのプレーを見ながら、「得点をたくさんとる」にはどうすればよいかを考え、伝え合う。 選んだ作戦をゲームでやってみて、振り返りを行う。 	<p>【主体的な学びの視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題解決のために技能を身に付ける必要感を持たせた上で、課題を解決する見通しをもたせる。 <p>【対話的な学びの視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題解決の際、考えを広げたり深めたりするために見付けたポイントの説明する活動を設定する。
4	作戦を実行するために、ボールをフェアグラウンド内のねらったところに打つことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 作戦を実行するため、ボールをねらったところに打つためのドリルゲームを行う。 ボールを打ってアウトになるまで進塁するゲームを行う。 学習の成果を振り返る。 	<p>【主体的な学びの視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題解決のために技能を身に付ける必要感を持って試行錯誤する。 <p>【対話的な学びの視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習の技のポイントに照らし合わせて自分の技能のできばえを確認する場面を設定する。
5	チームの失点を少なくするための守り方について考えたことを友だちに伝えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ボールを打ってアウトになるまで進塁するゲームを行う。 失点を防ぐためにどのように守ればよいか考え、伝え合う。 考えた作戦をゲームでやってみる。 失点を少なくするための守り方について自分の考えをまとめる。 	<p>【深い学びの視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習してきた攻撃の際のポイントを守備の場面に応用して活用する。 <p>【対話的な学びの視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題解決の際、見付けたポイントの説明する活動を設定し、考えを広げたり深めたりする。 試合の場面で作戦通りの守備ができるように声をかけ合う。
6	チームの失点を少なくするために、作戦に応じた守り方ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ボールの正面に入り、打球を捕球するためのドリルゲームを行う。 ボールを打ってアウトになるまで進塁するゲームを行う。 	<p>【主体的な学びの視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題解決のために技能を身に付ける必要感をもたせた上で、課題を解決する見通しをもたせる。 <p>【対話的な学びの視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習の技のポイントに照らし合わせて自分の技能のできばえを確認する場面を設定する。

毎時間、主体的で対話的で深い学びの全てが実現するものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくり出すために、児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で授業改善を進めることが求められます。



(2) 授業展開例

学習活動	指導上の留意点 (☆:評価)
1 整列・あいさつ・準備運動・場や用具の準備 2 学習課題の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に留意し、友だちと協力して準備しようとしている児童を称賛し、協力して準備するよう促す。 ・前時の学習から、ボールの飛距離と得られる得点が比例しない様子があれば把握しておき、課題提示前に振り返る。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> もっとたくさん点を取るには、どう攻撃したらいいのだろう </div>	
【10の視点】 ①魅力的な課題・教材の提示	<p>例えば、前時までの学習の様子や振り返りの中から、児童が「<u>たくさん点を取るためにはボールを遠くに飛ばすとよい</u>」と考えていることを把握し、そこを揺さぶることによって、ボールの飛距離以外の要因に着目させ、児童の思考が働く「解決したい問い」になるようにすることが主体的な学びにつながります。</p>
4 ゲーム①を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりにどんな工夫をしたか後で伝えられるように声かけをする。 ・チームで励まし合ったり、教え合ったりするように声かけをする。 ・ゲーム①の様子を想起させ、高得点を挙げるためのポイントについて考えさせる。 ・グループで話し合う必要性を確認し、必要に応じてグループにさせる。 ・全員の発言を聞いてからゲーム②での作戦を考えるように声かけをしておく。 ・作戦に応じて攻撃しようとしていたかを見取ることができるよう、作戦を把握しておいたり、練習で児童に声かけをしたりする。
【10の視点】 ⑥学び合う活動の充実	<p>学び合いは指導の目的ではなく手段であることを踏まえ、子どもたちの話し合いをもとに、攻撃のポイントとしてまとめることで汎用的な知識となり、攻撃の視点となるほか、失点を防ぐためにどのように守ればよいかを考える視点となるなど知識を応用することも可能となります。</p>
5 解決方法の話し合い 6 チームで練習する 「考えたことをやってみよう」 7 ゲーム② ポイントを生かしてゲームを行う。 8 後片付け・まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・作戦の効果を確かめることができるよう、ゲーム①と同じ相手とゲームを行う。 ・攻撃の作戦を守備の際にも応用しているような声かけがあれば称賛し、全体に広める。 ・学習カードに自分がゲームで実行しようとしていた作戦や、グループで効果的だった作戦について記入させる。
【10の視点】 ⑧学習を振り返る活動の設定	<p>自己の学びの振り返りを確実にできるようにするため、スモールステップでいねいに指導して学びの成果につなげていくことや、学習カードを活用した振り返りやICT機器を活用した学びの軌跡の可視化など、具体的な事物をもとにした振り返りを促すことも重要です。</p>

中学校 保健体育

1 教育課程実施上のポイント

(1) 目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

この目標は、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を育成することを目指すとともに、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現することを目指すものである。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
各種の運動の特性や健康・安全についての理解、基本的な技能。	運動や健康についての課題を発見したり、知識技能を活用して、課題を解決したり、他者に伝えたりする能力。	生涯にわたって運動に親しむことや健康の保持増進と体力向上を目指し、明るく豊かな生活を営もうとすること。

(2) 実施上のポイント

①改訂のポイント

- ◇体育分野においては、学校教育法に示す資質・能力の育成を明確にするため、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の育成を重視し、目標及び内容の構造の見直しを図ること。
- ◇運動やスポーツとの多様な関わり方を重視する観点から、体力や技能の程度、性別や障がいの有無にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるよう指導内容の充実を図った。
- ◇保健分野においては、生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成することができるよう、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」に対応した目標、内容に改善すること。
- ◇心の健康や疾病の予防に関する健康課題の解決に関わる内容、ストレス対処や心肺蘇生法等の技能に関する内容等を充実すること。
- ◇個人生活における健康課題を解決することを重視する観点から、健康な生活と疾病の予防を学年ごとに配当するとともに、体育分野との一層の関連を図った内容等について改善した。

②見方・考え方について

◇体育の見方・考え方とは

運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付けること。

◇保健の見方・考え方とは

個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること。

見方・考え方を働かせる学習過程を工夫することにより、保健体育科で育成を目指す資質・能力がより豊かになり、保健体育科の目標である、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成につなげようとするものです。



③主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善のポイント

◇次の視点等を踏まえて授業改善を行うことにより、育成を目指す資質・能力を育んだり、体育や保健の見方・考え方を更に豊かなものにしたりにすることにつなげることが大切である。

[授業改善を図る視点（例）]

主体的な学び	運動の楽しさや健康の意義等を発見し、運動や健康についての興味や関心を高め、課題の解決に向けて粘り強く自ら取り組み、学習を振り返るとともにそれを考察し、課題を修正したり新たな課題を設定したりする。
対話的な学び	運動や健康についての課題の解決に向けて、生徒が他者（書物等を含む）との対話を通して、自己の思考を広げ深め、課題の解決を目指して学習に取り組む。
深い学び	それらの学びの過程を通して、自他の運動や健康についての課題を発見し、解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく解決する。

④移行措置について

移行期間の平成31、32年度については以下のように対応します。

平成33年度から完全実施となります。

☆追加する内容 ★省略する内容

31年度	32年度
【1学年】 (保健分野) ☆健康の成り立ちと病気の発生要因(※1) ☆生活習慣と健康(※1) (体育分野) ☆運動やスポーツの多様な楽しみ方(※3)	【2学年】 (保健分野) ☆生活習慣病などの予防(※1) ☆喫煙、飲酒、薬物乱用と健康(※1) ★健康と環境(※2) (体育分野)
/	【1学年】 (保健分野) ☆健康の成り立ちと病気の発生要因(※1) ☆生活習慣と健康(※1) (体育分野) ☆運動やスポーツの多様な楽しみ方(※3) ★運動やスポーツの学び方(※4)

※1 第3学年から第1、2学年に移行した内容のため、新指導要領の1、2年生の内容を学習する。

※2 第2学年から第3学年に移行した内容のため、第2学年では省略し、第3学年で学習する。

※3 新指導要領に新たに加わった内容のため、第1学年で学習する。

※4 第1学年から第2学年に移行した内容のため、第1学年では省略し、第2学年で学習する。

2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導展開例

(1) 単元構成 (マット運動)

時間	ねらい	学習活動	主体的・対話的で深い学びの視点
3、4 本時	マット運動の基本的な技能のポイントを理解し、技を滑らかに行うことができる。	倒立前転、側方倒立回転、開脚後転などの基本的な技を滑らかに行うための技能のポイントについて考える。 技のポイントを意識して基本的な技を滑らかに行う。	【対話的な学びの視点】 タブレットなどICT機器を活用して、互いに技の出来栄を見合う場面を設定し、技のポイント、自己の課題や出来栄を確認させる。
5	自己の技能の高まりに応じて、条件を変えた技、発展技ができる。	マット運動の基本的な技をもとに、自己の技の出来栄や課題に応じて、条件を変えた技、発展技に取り組む。	【主体的な学びの視点】 既習の技のポイントに照らし合わせて自己の技の出来栄を確認させる場面を設定し、課題とその解決方法の見通しをもたせる。
6	異なるグループの基本的な技、条件を変えた技、発展技を「はじめ-なか-おわり」に組み合わせる行うことができる。	自己の技能に応じて、異なるグループの基本的な技、条件を変えた技、発展技を「はじめ-なか-おわり」に組み合わせる行う。	【対話的な学びの視点】 互いに技の出来栄を見合う場面を設定し、技のポイント、互いの課題や出来栄を確認させる。
7	自己の課題に応じた技で発表会を行い、互いの技の出来栄について相互に評価し合うことができる。	発表会を行い、技の出来栄について相互に評価し合う。	【深い学びの視点】 発表会で相互に技を確認し合い、技のポイント(知識)と出来栄(技能)の関連を深めさせる。

1 単位時間の授業だけではなく、単元等のまとまりの中で、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくり出すために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で授業改善を進めることが求められます。



(2) 授業展開例

学習活動	指導上の留意点 ☆評価
1 あいさつ 2 器具の準備、準備運動 基本動作の練習 3 基本的な技を滑らかに 行う練習	<ul style="list-style-type: none"> 出欠確認及び健康観察 安全に留意し、分担・協力して準備させる。 技につながる基本動作を丁寧に行わせることで、技の出来栄を高める意識を持たせる。
<div data-bbox="368 504 1249 577" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> マット運動の基本的な技能を滑らかに行うためのポイントを考えよう。 </div> <div data-bbox="209 846 480 1019" style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e0e0e0;"> 【10の視点】 ⑥学び合う活動の充実 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 3つの技のうち各グループ1つの技を担当し、滑らかに実施している映像とそうでない映像を比較させ、それぞれの技のポイントに気づかせる。 技のポイントをもとにグループで練習させ、技の出来栄を見合う。 タブレットを活用し、お互いの動きが客観的に見えるようにし、技の出来栄を確認しやすくさせる。 <div data-bbox="496 846 1439 1019" style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e0e0e0;"> 映像を比較するなどして動きのポイントを明確にすることで、お互いの技の出来栄を見合う視点が明確になります。 (ポイント)運動の特性に関わる視点を明確にして学び合う活動が行われているか。 </div>
<ul style="list-style-type: none"> 倒立前転の技能の確認 側方倒立回転の技能の確認 開脚後転の技能の確認 4 気づいた技のポイント について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <u>倒立前転のポイントとして、下肢の振り上げ、肩から背中を徐々に接地すること、顎を引き回転力を高めること</u>に気付かせる。 <u>側方倒立回転のポイントとして、着手の仕方、下肢の振り上げ、下肢を引き付け回転力を上げる</u>ことに気付かせる。 <u>開脚後転のポイントとして臀部から背中を徐々に接地すること、起き上がりやすくするための着手、下肢を開くタイミング</u>に気付かせる。 グループごとに気付いた技のポイントを発表し合う。 3つの技に共通するポイントについて考えさせる。 <u>回転系の技のポイントとして、順序接地することと回転力を上げるための体の使い方が滑らかな技の実施につながる</u>ことに気付かせる。 <div data-bbox="209 1489 480 1684" style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e0e0e0;"> 【10の視点】 ⑤説明・発表の機会の充実 </div>
5 技のポイントを踏まえ、 他の技の練習を行う。 6 器具の片づけ 7 学習の振り返りとまとめ	<ul style="list-style-type: none"> お互いに技を見合いながら、課題や出来栄を伝え合わせる。 技のポイントを整理して掲示し、課題や出来栄を伝える際の視点を持たせる。 安全に留意し、分担・協力して片付けさせる。 学習カードにそれぞれの技のポイントと出来栄を記入させる。

ポイントを参考に、より「深い学び」になっているかどうか、授業の見直しを図りましょう。

